

リウマチ・膠原病だより

東広島記念病院 リウマチ・膠原病センター
日本リウマチ学会認定教育施設

医療法人社団 ヤマナ会

東広島記念病院 広報誌

Vol.11 No.1

発行日 2018年 1月 1日

創刊日 2008年 4月 21日



理念

1. 私共は医道を尊び、規律を守り社会的責務にこたえます。
2. 私共は常に研鑽し信頼される病院を創ります。
3. 私共は安全な医療を提供出来る病院をめざします。

患者憲章

1. 尊厳を保つ医療を受ける権利を有します。
2. 納得出来る説明と情報を受ける権利を有します。
3. 十分な情報提供下で治療方針を選択する権利を有します。
4. 医療機関を自由に選択出来る権利を有します。



仙石庭園 (STONE PARK YAMANA)

この庭園は山名会長が趣味人生の集大成として19年の歳月をかけて企画、設計、施工しました。6,000坪の回遊形式の庭園は、その後も質量共に内容を充実させ現在では日本最大級の石庭となっています。是非一度ご来園下さい。(カーナビ目的地設定: 東広島市高屋町高屋堀 1398)

Contents

■特集

生物学的製剤を開始するタイミングについて
東広島記念病院 リウマチ・膠原病センター

院長 岩橋 充啓

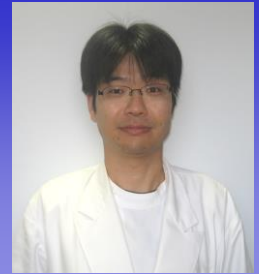
■入職医師紹介

東広島記念病院 リウマチ・膠原病センター
東広島記念病院 リウマチ・膠原病センター

医師 曾我部 愛由子
医師 徳永 忠浩

生物学的製剤を開始するタイミングについて

東広島記念病院
リウマチ・膠原病センター
院長 岩橋 充啓



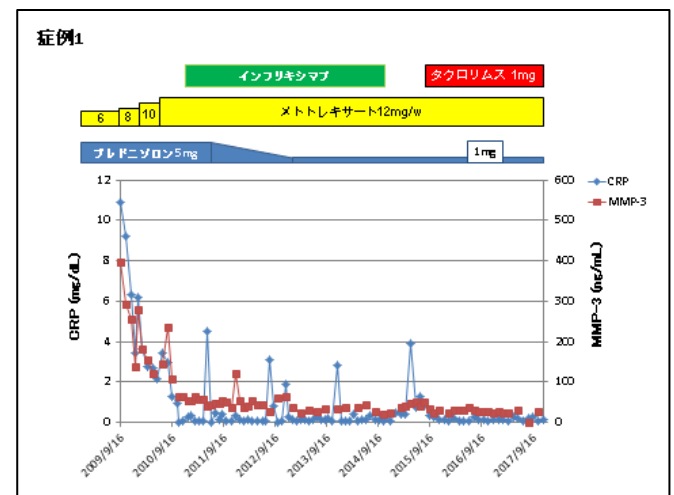
関節リウマチに対する生物学的製剤（Bio 製剤）として日本で最初にインフリキシマブ（レミケード®）が承認されたのが2003年のことです。我々がBio 製剤の投与を開始して15年になるわけですが、その間に Bio 製剤の立ち位置、投与開始のタイミングがどのように変化したかを考えてみました。

リウマチ治療、特に Bio 製剤を患者様に説明した後、もっとも多い質問が「Bio 製剤は一生続けるの？中止することは可能なの？」と「Bio 製剤は最後の砦なのでまだ使わないほうがいいのではないですか？」の二つでしょう。このような質問を受けた主治医からは「著効すれば中止できることもあります、基本的には継続する必要性が高いとおと考えてください」「最後の砦ではなく、骨破壊が進行する前に開始しましょう。しかし中止できる可能性はそれほど高くありません」というなんともすっきりしない返事が返ってくるでしょう。私もその一人です。私が経験した症例から Bio 製剤中止の可能性を再確認してみます。

症例 1

2009年初診、抗 CCP 抗体 126 U/mL、CRP 10.92mg/dL と極めて高い疾患活動性の 58 歳女性です。前医からメトトレキサート（MTX）6mg/週を服用していましたが、発症 7 ヶ月ですでに手根骨には多数の骨びらんを認めたため MTX 投与量を 12mg/週まで漸増していきました。2010 年 9 月には CRP 1.26 mg/dL、MMP-3 108 ng/mL まで改善しましたが、まだまだ腫脹関節数は 8 個と寛解には程遠い状態です。さらにこの 1 年で骨びらんはかなり進行しています。まだ 59 歳、今後のことを考えればこれ以上の骨破壊を見過ごすわけにはいかず、強く Bio 製剤を勧め、2010 年 10 月より TNF 阻害薬であるインフリキシマブ（レミケード®）を開始しました。図に示すように速

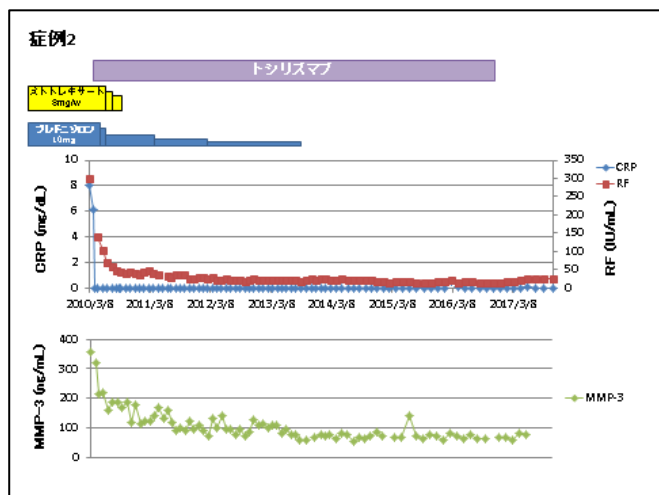
やかに CRP、MMP-3 も正常域に改善し、お仕事への支障もなくなりました。こうなれば高額である Bio 製剤を中止してみたいのは当然のことです。初診時の激しい関節炎を考えれば、Bio 製剤を継続しながら深い寛解を維持することが望ましいの言うまでもありません。しかし患者様と相談し、再燃のリスクもお伝えしたうえで 2014 年 11 月 Bio 製剤を中止しました。経過中両手関節に軽度の腫脹を認めましたが、内服に抗リウマチ薬（タクロリムス）を併用し、現在まで Bio 製剤を再開することなく寛解を維持しています。



症例 2

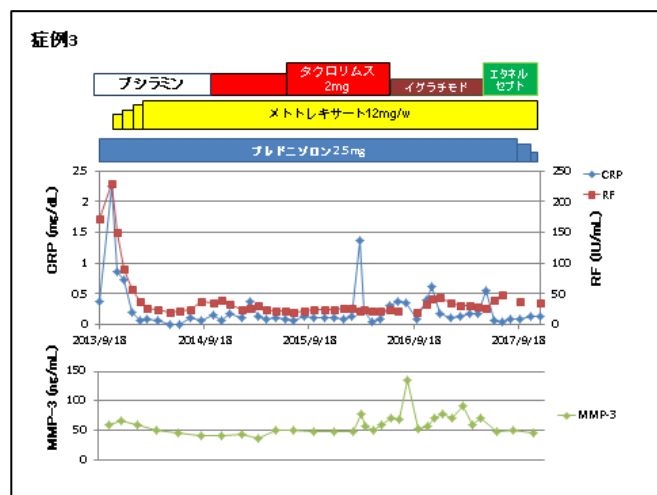
2004 年発症、前医にてインフリキシマブ（レミケード®）、エタネルセプト（エンブレル®）を投与するも効果不十分のため、2010 年 3 月当院初診となった 60 歳男性です。作用機序の異なる生物学的製剤であるトシリズマブ（アクテムラ®）を開始し、順調にステロイドを漸減中止し、さらに MTX も中止することができました。トシリズマブ投与開始から 6.5 年経過した 2016 年、「トシリズマブを中止してみたい」と希望されました。トシリズマブが著効した症例においてリウマチに関する薬剤をすべて中止してみた「DREAM 試験」では 1 年後も再燃がない症例はわずか 13.4%と報告されています。この試験をもとに「すべて

の薬剤中止は現実的には高すぎる目標設定である」ことをお伝えしましたが、中止への希望は強く、再燃時には速やかに再開することをご理解いただき、2016年11月Bio製剤を中止しました。図に示しますように1年2ヶ月経過した現在も薬剤フリー寛解（リウマチに対する薬剤なしに寛解を維持している状態）を維持しています。



症例 3

2013年発症、初診時抗CCP抗体41.6 U/mL、CRP 0.37 mg/dLと中等度の疾患活動性の51歳女性です。MTX投与を開始し関節炎のコントロールは良好、2016年には診察時に関節の腫脹を認めることはほとんどありませんでした。私自身の印象では関節破壊に至る炎症はなく、リウマチは寛解状態であると判断しました。しかしお話を伺うと1か月に3日ほど間歇的に激しい関節腫脹があり、仕事に支障がある日があるとのこと。美容師として勤務されており、「生物学的製剤により仕事への支障が0となるのなら試してみたい」と希望され、2017年5月エタネルセプト（エンブレル®）を開始しました。現在ではリウマチ発症前と同様に仕事が可能となっています。私はMTX投与により「腫脹関節が0であり治療効果は十分である」と考えたのですが、患者様は「まだ仕事はリウマチ発症前と同様にはこなせないので不十分」と考えた症例です。最初の生物学的製剤承認から15年以上経過した今、より高い目標である「社会的寛解（日常生活だけでなく社会生活にも支障がない状態）」を目指すために生物学的製剤を選択する患者様も増えてきました。改めてご自身のリウマチ治療の目標・ゴールについて考えてみてください。



私たち医師は過去の経験や論文をもとに「Bio製剤の中止は困難」「中止できるかどうかはやってみないとわからない」と説明します。症例1は初診時の疾患活動性が著しく高く、Bio製剤の継続的治療が必要であろうと考えました。症例2は過去の論文をもとにBio製剤を含めすべての薬剤を中止できる可能性は低いと考えました。しかし2症例ともBio製剤を中止した現在も経過良好です。Bio製剤中止後に疾患活動性が悪化した場合、再開により中止前とほぼ同等の効果が得られることが明らかになっています。そのため「一度は中断にトライし、痛くなれば再開しよう」と考えることもできます。このことを現在ではtreatment holiday（治療の休暇）と表現されます。休暇が3ヶ月か1年か3年かはわかりませんが、薬をお休みしてみることは可能と言えます。

症例3は医師の治療目標「腫脹関節をなくし、骨破壊の進展を予防する」と、患者様の治療目標「社会生活（仕事）に1日たりとも不自由がないように」が乖離していた症例です。Bio製剤の登場により、より高いリウマチの治療目標を設定し、その目標を達成することができました。「Bio製剤を使用して山に登りたい」「Bio製剤を使用してバリバリ働きたい」このように高い目標を持つことができるのは薬物療法の進歩のおかげです。またtreatment holidayの考え方により「数か月間試してみよう」と考えることも可能です。皆様も今一度ご自身の治療の目標・ゴールについて考えてみてはいかがでしょうか？

（合併症により生物学的製剤が禁忌となる場合もあります。適応については主治医に相談してください）

東広島記念病院 リウマチ・膠原病センター 曾我部 愛由子

平成29年4月より東広島記念病院 リウマチ・膠原病センターで勤務させていただくことになりました曾我部 愛由子と申します。昨年度までは地元愛媛県松山市の道後温泉病院で働いており、2年ぶりに広島県に戻りました。一つ一つ丁寧に診療を行っていきたいと思います。よろしくお願いたします。



曾我部 愛由子

東広島記念病院 リウマチ・膠原病センター 徳永 忠浩

はじめまして。今年度より当院へ着任した徳永 忠浩です。広島市生まれ、安芸高田市育ちです。私は好奇心旺盛な性格なため、文学・経済学を勉強後に医学部へ進み、33才で医師になりました。紙面の都合で詳細は割愛するので、興味を持っていただいた方は個別に話しかけてください。



徳永 忠浩

医師としては6年目で、これまで広島市民病院で初期研修医2年間、県立広島病院リウマチ科で2年間、広島大学病院リウマチ膠原病科で1年間ほど勤務しました。今年度から、1週間のうち半分は当院で勤務し、残りの半分は広島大学大学院生として研究を行っています。

スポーツ全般が好きで、最近はジョギングする程度ですが、高校ではサッカー部、医大では軟式テニス部で汗を流しました。30年来のカープファンで、カープ連覇は嬉しいですが、これまでの25年間のことを思えば、もうあと3連覇くらいはしてもらいたいところです。

至らないことがあったりご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、患者の皆様とヤマナ会の皆様のお役にたてるよう努めます。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

周辺地図



ヤマナ会 関連施設

東広島記念病院 リウマチ・膠原病センター

〒739-0002 東広島市西条町吉行 2214
TEL 082-423-6661

リウマチ・内科銀山町クリニック

〒730-0016 広島市中区幟町 13-4 広島マツダビル 5F
TEL 082-228-6661

広島生活習慣病・がん健診センター 東広島

〒739-0002 東広島市西条町吉行 2214
TEL 082-423-6662

広島生活習慣病・がん健診センター 幟町

〒730-0016 広島市中区幟町 13-4 広島マツダビル 4F・5F
TEL 082-224-6661

広島生活習慣病・がん健診センター 大野

〒739-0422 廿日市市大野早時 3406-5
TEL 0829-56-5505

東広島整形外科クリニック

〒739-0024 東広島市西条町御園宇 4281-1 東広島クリニックビル 1F
TEL 082-431-3500

さくら MRI クリニック

〒730-0016 広島市中区幟町 13-4 広島マツダビル B1F
TEL 082-224-6610

発行 広報委員会

〒739-0002 東広島市西条町吉行 2214 医療法人社団 ヤマナ会 東広島記念病院 リウマチ・膠原病センター
TEL 082-423-6661 FAX 082-423-7710 E-mail izika@hnh.or.jp http://www.hnh.or.jp/